# 郷土摂津いにしえ通信

第100号

平成18年8月1日

発　行
摂津市教育委員会　生涯学習部
生涯学習スポーツ課
〒566－8555　摂津市三島一丁目1－1
TEL(06)6383－1111　(072)638－0007
ホームページアドレス
http://www.city.settsu.osaka.jp/

**廃刊のごあいさつ**　市民の皆様に摂津市の歴史を少しでも知っていただきたいとの気持で「いにしえ通信」を平成10年5月1日に創刊号を発刊いたしました。当初は、A3両面ではじめましたが、15年4月の60号からA4両面になりました。そして、18年8月で100号になり、きりのいい数字で廃刊することにいたします。

市民の皆様に「読んでるよ」と声をかけられたり、学校の先生に「授業に使用しているよ」言われた時は、本通信を編集していてよかったと感じていました。

今号で「いにしえ通信」は一旦廃刊になりますが、皆様方のご要望がございましたら、また新しい形で再開できれば幸いでございます。

**☺ これまでのご愛読ありがとうございました。**

## ふるさとの川「淀川」

～川は流れる悠久の歴史の中で～

**人類が出現する以前の原始・古代・中近世から現代まで時代別に淀川と摂津市の関わりに迫ります。**

**最終回**

人間の発祥をみると、水との深い関係があり、文明の発達には川の流域がその舞台を構成しています。水は人間にとってきわめて必要な資源で、人間は水がなければ生存出来ません。だから水を求めて水のあるところに定着居住します。

日本の文化は西から伝えられました。大阪には淀川と大和川があり、九州から瀬戸内海を通じての水路として人間と文化を運びました。文化は常に海や川筋が伝播の媒体となり、かくして淀川や大和川は近畿の文化の伝播の道でした。淀川は難波の文化を育て、大和川は難波を通って大和の文化を育てました。

6世紀代に継体天皇が越前から迎えられて、武烈天皇なきあとの空位をついだ際、507年に河内国樟葉宮に最初に都を置き、511年に山背（城）国筒城宮（綴喜郡）に、508年に弟国（乙訓郡）に遷都し、526年に大和に遷都するまで、20年間にわたって政治の中心は淀川流域でした。

7世紀になると高句麗が滅び、百済も滅ぼされ新羅が朝鮮半島を統一したので、滅んだ国の人達は追われて、海を渡ってきました。すでに日本に来ていた百済系の秦氏を頼って多くの人がその周辺に住んだことは、淀川左岸に秦とか太秦とかの地名のあることがその証です。こうした人達が古代国家として整備されてゆく段階において、技術や技能の面に従事したりして大きく貢献しました。

日本で最初の大陸文化の輸入港、つまり玄関口は難波の津（なにわのつ）でした。淀川の海への流出口は、瀬戸内海を通じて朝鮮半島と結び、大陸との交流が活発に行われました。677年に、港津として正式に監督官を常駐させる機関、摂津職が置かれました。大和政権は大陸へ使節を派遣し、先進文明の輸入に努力しました。その交流の中心となっていた難波の津は、後に重要性のゆえに国として国司がおかれ、延暦12年（793年）に摂津国が生まれました。

大阪の歴史や文化を語る時、淀川抜きには語ることが出来ないほどに、淀川は近畿圏の社会、経済、文化の基盤となっていました。時代の流れとともに淀川から三十石船の姿は消え、かっての渡しも今は近代的な橋に変わってしまっています。両岸の農村地帯も住宅に衣替えされています。今も昔も変わらないのは淀川が脈々と流れ続けているということだけです。

（松籟社出版「淀川」、向陽書房出版「淀川往来」より）

# ふるさと摂津案内人 投稿コーナー

歴史学習ボランティア【ふるさと摂津案内人】の方より本通信の事や淀川についてなどバラェティに富んだ投稿をいただきました。

**子供の頃の淀川の四季　　林　健三　氏**

春　水の流れも緩やかで河岸には草原のような緑が一面、堤防に春のこどもたちの土筆があちらこちらに頭を出し、河岸の繁みにひばりが巣をつくり子供を育てている。

夏　淀川では水泳です。川底まで澄み小魚が水槽の中で泳いでいるように見える、魚とりもビンアンコで中に入って来るのがよく見えるので楽しいものでした。堤防のどこからともなく聞こえてくるキリギリスの合唱、草むらからバッタが飛んで来て頭や肩にとまる。雷雲が川面にそのままの姿でうかんだように映っている。

秋　朝方すすきの穂の白さが霧で光る堤防には真っ赤な彼岸花が点在して咲いている。川の水は底まで空の青さを透かしている。白い浮雲までそのまま。

冬　灰色の空が水の中に落ちている暗い、冷え込む朝の水面は白い煙を一面に覆っている。北風にのってゆっくり流れている。波の荒いときは、川底は見えない。

水害をもたらす淀川も常に四季おりおりに美しい水辺で友達と遊んだが、今河川敷は整地され美しく出来上がっているが、何故か子供の頃の淀川とは違う。

**橋と自転車　　衣川　明子　氏**

淀川では対岸に渡る時、昔の人々は舟を漕いで渡ったそうです。今を生きる私は時々、橋の上を自転車を漕いで渡ります。ただ、淀川に掛かる多くの橋の中で私が自転車で渡った橋は僅か四つの橋にすぎません。

一つは鳥飼大橋です。対岸は守口、旧友の住んでいる市、いつも電車を乗り継ぎ会いに行く所。ある日、地図で見て橋を自転車で渡り行きました。

二つ目は、豊里大橋です。同じく守口に渡るに良いと思い試しました。

三つ目は菅原城北大橋です。花好きな友人三人と私は対岸にあるしょうぶ園を目指しひたすら自転車のペダルを漕ぎました。

そして四つ目は城東貨物線です。もう一つの名前は赤川の鉄橋と云い、その鉄橋によりそって木の橋が付いています。その木の橋を自転車で漕ぎ渡る時、私と自転車は淀川の風を受けます。対岸のおしゃれな団地を行くとそこは毛馬の水門です。

**郷土摂津いにしえ通信第 100 号を祝す！　　高上　慶美　氏**

“郷土摂津いにしえ通信の長寿第 100 号”が即ち、“ふるさとの川「淀川」”の連載第 1 回～17 回にも及ぶ偉業となったことを、お祝させていただきます！

…思えば小生、戦時中の昭和 17 年に、大阪府立・淀川工業高校に入学し、終戦直後の昭和 21 年にそこを卒業後は、校舎を同じくする淀川工業専門学校（現在の大阪府大）に入学することになりましたが、工専時代は時々、講座を抜け出して、母校の裏手にある「淀川」の流れに学友と 2 人だけで飛び込み、苦手な「水理工学」の代わりに、好きな「水泳」を介して、独り勝手の「水理工学」を身体で愉しんでいたのでありました。…加えて、校歌も唄いながら、（仁徳の恵み遍き難波津の大淀川の流れは絶えず…）と、暢気なものでありました。

小生、只今 77 歳、いつの間にやら「ふるさと摂津案内人」になっておりまして、「淀川筋の治水」と称すテーマに取り組む事もあり、上記連載“ふるさとの川「淀川」”の第 1 回～13 回目までを入手して、参考にすることが出来ました。想えば、淀工で学び、淀川で泳ぎ、唄い、愉しみ、…そして今では、淀川に関する歴史に勤しむことができるのも、“仏縁・ご縁”というものでしょうか！

**ふるさと摂津案内人のスケジュール**　ふるさと摂津講座　9 月 20 日淀川を遡った 2 つの棺・蓮如と西本願寺、10 月 18 日弾丸列車・蕪村と淀川パート 2、11 月 15 日正雀今昔・味舌とむしろ・今でも残る年中行事、1 月 17 日かも猟と摂津・淀川筋の川船、2 月 21 日摂津市域の川・韓流ブームと渡来人

おおさかふみんネット　我が町再発見パート 3　12 月 6 日　淀の流れに注ぐいにしえ文化　～縄文土器から淀川三十石船まで　生涯学習フェスティバル　9 月 24 日（日）井路クルーズで参加予定

※いずれの詳細な内容は各月の広報お知らせ版に掲載します。

**蕪村の愛した淀川　　古谷　邦雄　氏**

私が蕪村の句碑に出会ったのは、45・6年前。偶然に通りかかった毛馬の閘門付近であった。

春風や堤長ふして家遠し

小さな三角の句碑は春の夕日を浴びてちんまり座っていた。

与謝蕪村は江戸中期の俳人で、淀川の下流毛馬で生まれた。しかし、自分の生まれた所も、父母のことも、生年月日もいっさい人に言わなかった。そして、度々毛馬付近を三十石船で通り過ぎながら、一度も故郷に立ち寄らなかった。その理由は今日でも分からない。

しかし、蕪村の作品や書画の落款を見ると「東成」「淀南」「浪華長堤」「馬塘」などの文字を題に付けており、故郷の毛馬や淀川を提示している。

蕪村は自分の出自を秘したゆえに、人一倍望郷の念が深く、名作「春風馬堤曲」「澱河歌」をはじめ、淀川附近の俳句を数多く作っている。

現在、二代目の立派な句碑が悠々の流れの淀川を見下ろしているが、私は字誤りのある小さな旧碑のほうが好きである。

**淀川と江口の君堂（寂光寺）　　範國　忠士　氏**

淀川には幾つかの港があり、渡し場がありました。山崎や枚方そして鳥飼、大川に１番近いところでは江口の里と呼ばれた港がありました。

淀川を上下する河船と瀬戸内海を往来する海船が乗り換える場所、難波の江口から地名の江口が生まれたといわれ。

紀貫之の土佐日記に「七日、けふは川尻に船入れ立ちて漕ぎ上るに、河の水ひてなやみ煩ふ」と書かれ、隋の使節が推古天皇 16 年（608 年）に来朝したとき、朝廷は 30 隻の船を仕立てて江口で歓迎したとの記録があり、交通の要衝として栄えた。仁安 2 年（1167 年）9 月 20 日には全国的に有名な西行法師と遊女妙の歌問答がありました。

西行「世の中をいとふまでこそかたからめ仮の宿りを惜しむきみかな」妙「世をいとふ人としきけばかりの宿に心とむなと思うばかりぞ」時雨にあい雨宿りの問答、僧と遊女の問答として謡曲「西行」として今尚伝承されている。

後に妙は仏門に帰依し、元久 2 年（1205 年）寺を創建したと伝えられ、堂宇は南北朝内乱で焼失、現在の建物は正徳年間（1711～1716 年）再建の尼寺である。歌の意は西行法師「あなたに出家しなさいというのなら、お断りされるのももっともです、しかし雨宿りもだめだとはけちんぼですね」

妙「お坊様ですから恐れ多いと辞退しましたのに、あなたしつこい方ですね」この機知と見事な内容に西行は感心し、ぜひにと上がりこみ、夜を徹して文学や人生について語り明かしたいといわれています。

森の石松が次郎長の金刀比羅代参での 30 石船中旅の問答も浪花節で有名です。母なる大河淀川には幾多の出会いや、人生を変える物語が満ちています。

いにしえ通信 100 号記念をふりかえり流れの歴史を辿ってみませんか。今は高速道路、鉄道や車での移動が交通手段として重宝され土佐日記のように江口から山崎まで船が水量不足で進まず七日も要したとも言われています。

19 世紀まで船運の要として淀川は利用、活用されてきました。20 世紀になると治水、利水に重点が置かれ川浚えや護岸工事が行われました。21 世紀の淀川は後世に何を残し伝えるのでしょうか。川の中にゴルフ場や野球のグランド、サッカー場などの川の役割は変質したのではないだろうか。

原点に返って淀川の流れを悠々の歴史の中で甦らそうではありませんか。

**「いにしえ通信」第 100 号、おめでとうございます！　　横田　正明　氏**

企画から原稿作成、校正、印刷、配布まで、多くの方々の手を煩わせたことでしょう。関係者の皆様に敬意を表します。

それも月に 1 号の発行としたら、８年余りも継続されたことになり、その努力には全く頭が下がる思いです。本当にご苦労様でした。

反面、寂しいのは、この記念号を最後にこれが廃刊になると伺っていることです。

例えば「ふるさと摂津案内人」による「ふるさと摂津講座」の概要だけでも、出席できなかった人々のために、また出席者に記憶メモとして類似の方法で刊行し続けていくということは無理なのでしょうか？折角のシリーズですから、なるべく早い時期に題字は変わっても、より充実した内容での復刊を切望するものです。

# 第53回　埋もれた摂津市の歴史 千里丘遺跡群発掘調査

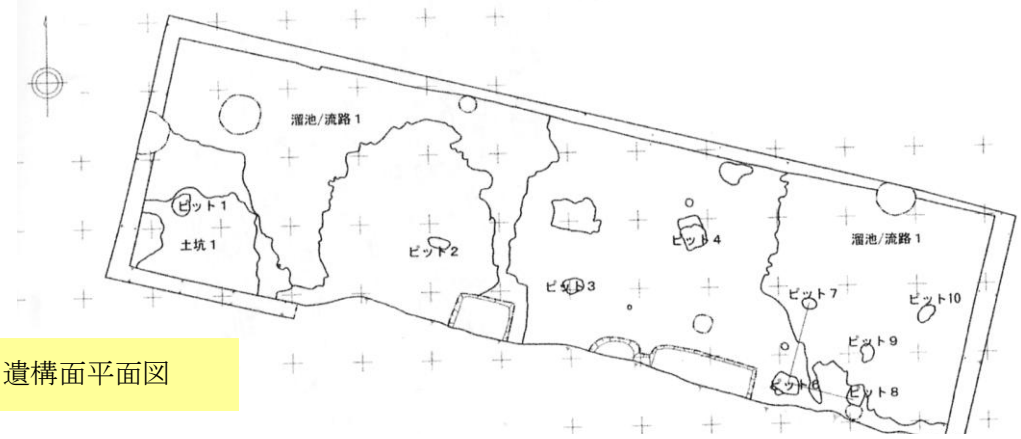
**発掘調査で明らかになる埋もれた摂津市の古代に光を当てます。**

先月号では調査に至る経過などを紹介しました。今月号では詳細をお知らせします。今回の調査場所はJR 千里丘駅西口前です。調査の結果、縄文時代から近世にわたる複合遺跡であることが確認できました。

地表面より約 45～65cm までは旧耕作土で重機堀削しました。次に地表面から 1.33m から 1.50m までは人力で掘削しました。堆積状況から大きく 7 層に分けることができます。この 7 層は隣接する層や遺構からの影響と考えられる要因によりさらに細分することが可能でした。このうち 3 面から遺構が検出されました。第 3・6・7 層の上面において精査を行い遺構の検出とともに断面図作成など記録保存が実施されました。各々、近世、中世、古代期以前の面と性格づけられることがわかりました

第１面　近世（江戸時代）の遺構・遺物

第１面では溜池もしくは流路と見られる遺構、溝などの耕作の痕跡、柱穴と見られる建物の痕跡、土坑などが検出されました。遺物は土師器・須恵器・瓦器片のほか、緑釉陶器、国産陶器碗の高台付き底部、近現代のものと見られる陶器片や瓦片など、比較的新しい時代の遺物が出土しました。これらの遺構・遺物から近世以降も長期に渡って土地利用されていたと考えられます。溝１は溜池／流路１によって切り込まれており、やや古い時代の遺構と見られる。また、検出面より上面においても、畦畔や溝など、耕作の痕跡が主に北壁断面より検出されました。

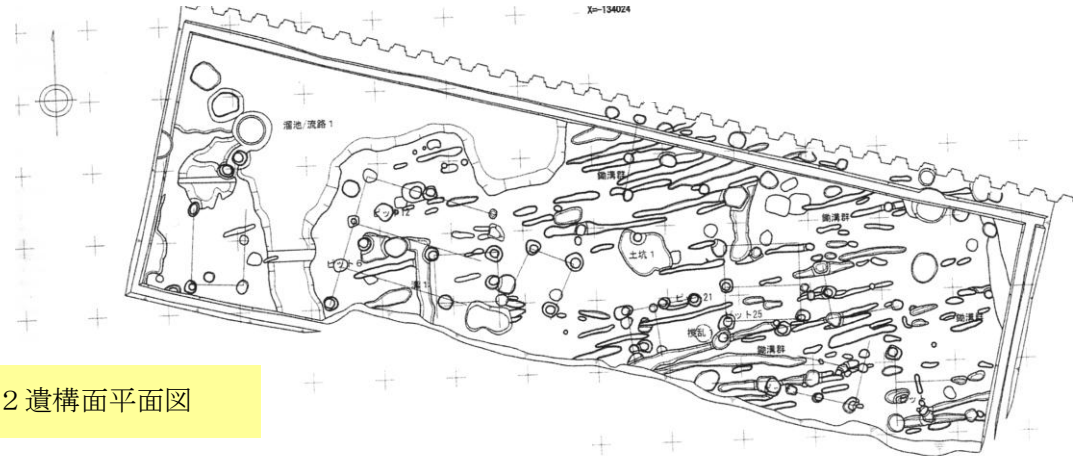



第１遺構面平面図

第２面　中世（鎌倉・室町）の遺構・遺物

第２面でも第１面同様、耕作と建物の痕跡を中心とした遺構が検出されました。主たる耕作の痕跡は、第１面から続く溜池、流路、溝１とほぼすべてが東西方向にそろう鋤溝群でした。溜池、流路の下層からは、土師器・須恵器・瓦器の破片が出土しました。

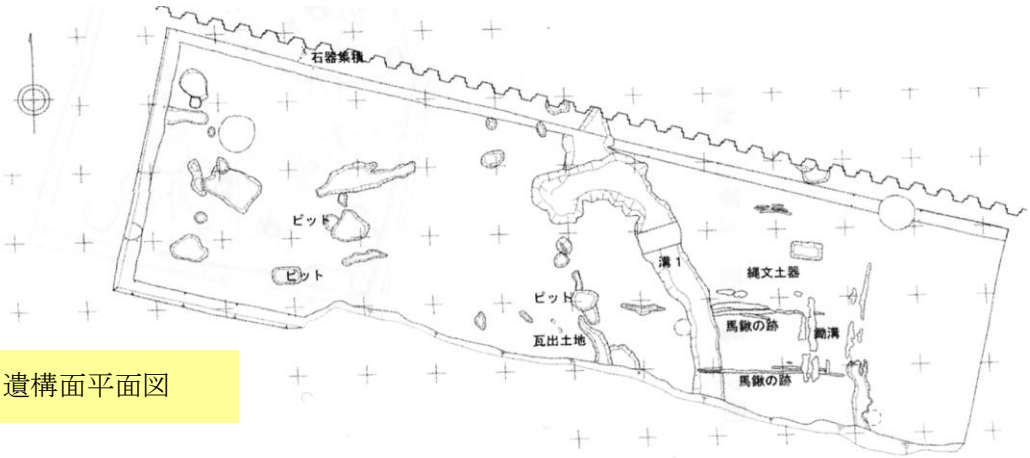
建物の痕跡と見られるものは、ほぼ南北方向を主軸とする掘立柱建物群の柱穴が検出されました。建物は約８棟まで確認されます。柱穴からは土師器、須恵器片、瓦器片が出土しました。これらの遺物は、鎌倉時代（中世期）のものでした。この時代の人々の活発な生活が想定されます。



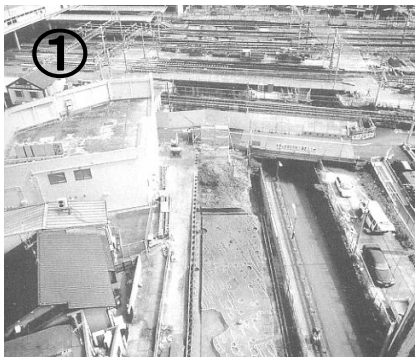

第２遺構面平面図

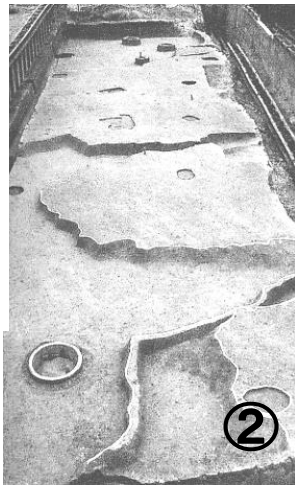
第３面　古代（奈良・平安～縄文）の遺構・遺物

第３面は長期にわたる、異なった時代の遺構を同一面上で検出されました。奈良～平安時代にかけてのものと見られる東西方向の流路、東-北方向にＬ字型に曲がる溝、牛と考えられる足跡、馬鍬の跡と考えられる約 10cm 間隔で平行に走る数条の溝、鋤溝を伴う耕作の痕跡などが検出されました。また、柱穴が想定される遺構も検出されました。これらの遺構は第２面とは異なり数も少なく、建物として並びませんが、周辺からは、須恵器・土師器・黒色土器（内黒）の破片とともに瓦も出土したため、同時代に住居が建てられていた可能性を残します。




第３遺構面平面図



①調査区遠景（西から）
②第１面検出状況（西から）
③第２面検出状況（西から）

縄文時代のサヌカイト集積について

第３面において、調査区の北西隅近く（調査区北壁上）より、縄文時代の地層から 137 点を越えるサヌカイト製石器の集積が検出されました。近くからは縄文土器破片も出土しました。これらの石器は 16 点が上層で検出されていましたが、この 16 点を取り上げてみるとレンズ状に集積していることが分りました。堆積の中心部の厚さは約 9.3 ㎝となります。接合可能なものが数点ありましたが、石器として完成したものはありませんでした。このような縄文時代サヌカイト集積は比較的珍しく、これから他の遺跡の検出例を検証していきます。

調査地は千里丘陵の縁辺部に位置します。縄文時代の狩人がここで矢じりを作り、勇んで山に分け入ったのでしょうか。古代のロマンはつきません。

（右）石器出土状況図（左）出土状況写真

（参）『千里丘遺跡群発掘調査概要』
都市計画道路千里丘三島線道路改良事業に伴う調査
2006 年３月　大阪府教育委員会刊行
※写真・図面は同報告書より引用

# いにしえ通信と8年間

| | P1 | P2 | P3 | P4 |
|---|---|---|---|---|
| 創刊号<br>H10<br>5月1日 | **創刊にあたって**<br>**平成9年度**<br>**発掘調査成果展の案内** | **摂津市域　ちょっと昔のくらし**<br>その1　『年中行事』 | **郷土史コーナー**<br>摂津国しいわれと範囲<br>三島のいわれと範囲 | **考古雑話**<br>わかりつつある縄文時代の生活<br>天理市黒塚古墳、明石原人 |

**創刊号　そのとき日本では**

長野オリンピック開催、日本「金」５個
和歌山カレー毒物混入４人死亡、保険金疑惑
W杯開催、日本初出場
参議院選で自民惨敗、小渕内閣が発足
横浜がプロ野球日本一

| | P1 | P2 | P3 | P4 |
|---|---|---|---|---|
| 第30号<br>H12<br>10月1日 | **道具は語る**<br>**摂津市のちょっと昔の暮らし**<br>第6回卓袱台(ちゃぶだい) | **投稿欄**<br>『私にも一言』昔・横道・迷い道<br>川へ「山行き」 | **郷土史コーナー**<br>鳥養の歴史<br>夫役と綱引助郷 | **考古雑話**<br>摂津市と水田の考古学<br>摂津市域の条里制　条里原点石の調査(二)<br>方形周溝墓 |

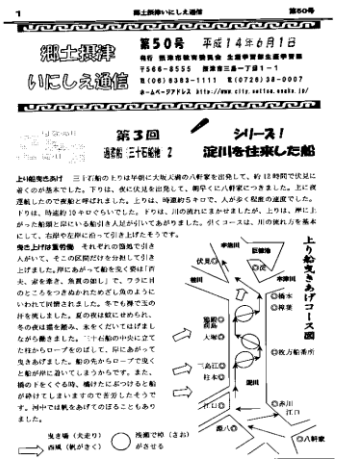
**第 30 号　そのとき日本では**

日比谷線で脱線事故
新潟で不明少女が９年ぶりに見つかる
三宅島付近で火災噴火、島民らが避難
雪印乳業製の乳製品の食中毒菌汚染が発覚
大手百貨店そごうが倒産
白川英樹にノーベル賞
有珠山が噴火
旧石器発掘をねつ造

| | P1 | P2 | P3 | P4 |
|---|---|---|---|---|
| 第50号<br>H14<br>6月1日 | **母なる川淀川**<br>第3回過書船(三十石船他)2<br>上り船曳きあげ、曳きあげは重労働 | **ふるさと摂津講座** | **郷土史コーナー**<br>三宅(みやけ)の歴史<br>地名のいわれ | **第15回 埋もれた摂津市の歴史**<br>平成12年度蜂前寺跡2次調査<br>蜂前寺跡2次調査についてまとめ |

**第 50 号　そのとき日本では**

牛肉偽装事件　雪印に続き日本ハムも
日朝首脳会談
小柴昌俊、日本公館内で拘束
サッカーW杯
鈴木宗男逮捕



| | P1 | P2 |
|---|---|---|
| 第70号<br>H16<br>2月1日 | **農具から見た春夏秋冬**<br>第11回わら打ち | **石碑・顕彰札の紹介**　神崎川分岐点跡<br>**第34回　埋もれた摂津市の歴史**<br>摂津市から須恵器が出土(6) |

**第 70 号　そのとき日本では**

５９年ぶりに戦地へ派兵
イラクで日本人が人質、被害者バッシング
参議院選挙で自民党が惨敗
週刊文春に出版差しとめ、事実上の検閲
鳥インフルエンザ騒動

fin